

グループホーム 楽居

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	開設当初より、母体である医療法人が掲げる理念をそれとして、暮らしてきた。スタッフミーティングで繰り返す中、母体の理念を基に独自の理念を作ろうという動きが、最近スタッフの中より出てくるようになり、現在、話し合いの途中です。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	現在掲げている理念については、入居を希望される方、入職者、研修生等へ説明している。 又、スタッフミーティング時はそれに基づいた介護、関わりができていくか話し合っている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	町内会の定例会へ出席時、又、運営推進会議の場を利用し、たびたび、説明している。入居される本人、家族へもわかりやすい具体例を挙げて話している。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	毎日の通勤時に近所の方々と会う時は“笑顔”で気持ちよく、元気に挨拶をするように心がけている。 又、近くまで買い物に出かけたりして、顔を覚えてもらうようにしている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	町内会の行事や集会へは、できる範囲で参加する努力をしている。 夜間パトロール、防災訓練、花壇作りへも積極的に参加している。		

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域との関わりがまだ十分でない状況であり、貢献できるまで至っていない。今できることとして、校区の中学校より介護福祉体験、職場体験の場として受け入れている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一人ひとりの能力や経験を基の実施したことにより、その意義を深く理解できた。又、話し合いも繰り返したことにより、じっくり考える姿勢も身につけられたと思われる。すぐとりかかれる項目をじっくり検討中のものとでている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価の結果については運営推進会議の場で必ず報告し、意見を求めている。又、早速取り組んでいる事、今後の課題についても明示している。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は市町村へ出向く機会がとれず、連携は今一つの状態となっている。		スケジュールを調整し、足を運ぶ機会を作りたいと考えている。 顔なじみの関係を目指したい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	“権利擁護”については研修会への参加し、勉強会へ取り上げ、全員で学習している。		成年後見制度については、事業所の大事な項目であるため、ある一定期間をおいて、繰り返し勉強していく姿勢も持ちたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今回は虐待防止についての勉強会への参加はできていない。		研修会へは参加に向けて、勤務調整や職員の意識向上を目指したい。

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居に伴い、一変する環境の変化や不安な気持ちをおもい、細やかな説明を行い、又、疑問点には、納得されるまで、誠実にかかわる姿勢をくずさないようにしている。</p>		<p>十分時間をかけ、納得された上での入居であっても、家族の気持ちはいつも、揺らいでいるように感じます。面会時に早く笑顔が見られるように、十分配慮した関わり方を心がけたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者が直接、自分の気持ちをぶつけてこられることは少ないが、時に家族が本人に代わり、不満や苦情などを代弁される事もある。申し送りやスタッフミーティング時に取り上げ、全員に周知してもらっている。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日々の暮らしや健康状態については面会時に必ず報告して、安心して頂いている。 遠方に住まわれる家族へは書類を郵送時、近況を報告し、写真があれば、同封している。又、連絡ノートを利用している家族もいる。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時には、スタッフへ何でも言ってもらえる様な関係作り、環境作りに取り組んでいる。 問題が生じた場合は、速やかに誠実に対応し、更に、申し送りやミーティングで報告し、全員に周知していく姿勢をとっている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見ボックスの設置やスタッフミーティングを行うことで職員の意見をくみ上げ、毎月、経営者も参加して行われる責任者会議の場で提示し、意見が反映されるシステムを作っている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>定期的に行われているスタッフミーティングの中で勤務形態の評価を行っており、利用者の生活状況の変化に合わせ、必要によっては勤務時間帯の変更を行っている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>グループホームについては、なるべくスタッフの固定化を図り、顔なじみの職員による対応を心がけている。</p>		

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用にあたっては、2人の管理者(男女各1名)の協議によって決定しており、性別・年齢等の差別が無い様に配慮している。</p>		<p>宗教、思想に関わる差別や勧誘の防止などを目的としたガイドラインの作成。</p>
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>職員に対して入居者の人権を尊重させる教育の一環として、入居者についてのケースカンファを定期的に行っている。この中で入居者のこれまでの生活歴などを理解することにより入居者をより尊敬、共感できるように心がけている。</p>		<p>高齢者の人権に関わる啓発資料(パンフレット)等の職員への配布。</p>
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>パートを含む全職員を対象に施設内の定期勉強会を毎月開催している。また、事業所外での講習会や研修に職員が積極的に参加できるよう参加費等の負担免除を行っており、本年も全国学会を含め複数の研究会への参加を行ってきた。また、新規採用者に対しては業務マニュアルを作成し、業務内容を速やかに理解、実践できるよう心がけている。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会へ参加し、企画、運営等に参画しており、本年は当施設担当での勉強会を開催した。</p>		<p>他の事業所との学習会等を企画開催する。 他のグループホームへの見学や相互研修を企画する。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常の中で職員の生活状況、ストレス、悩み、職員同士の人間関係等の把握に努め、個別に話を聞く機会をなるべく設けている。また、事業所内での職員間の親睦が図れる場(親睦会、忘年会など)の機会を増やしている。また、職場環境の改善に努め、より快適に働けるためのハード面での改善(本年はコピー機、パソコンやテレビなどを新調した)を行っている。さらに、診療所併設の利点を生かした職員に対する細かな健康状態の把握および迅速な医療的なサポートを行っている。</p>		<p>労働条件の緩和および福利厚生の方の更なる充実。</p>

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎年、積極的に職員の自主性に任せた企画を実施してもらい、秋祭りなどの企画を成功させている。また、定期勉強会については職員自らがテーマを決め運営している。これらの企画に対しての発表者や参加者などについては毎回運営者が把握し、プラス評価として職能評価に反映させている。また、介護福祉士や介護支援専門員などの資格取得を促し、介護職への志気が高められるよう心がけ、永年勤務者に対して表彰を行っている。		職員が向上心を持てるための職員の努力や成果を反映できるような職能評価のシステム作り。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居開始前に、ご本人と十分に話し合う機会を設けて受け入れを行っている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居開始前に、ご家族とスタッフとの面会の場を設け、ご家族の抱える問題をしっかりとお聴きし、一緒に考え、ご家族の気持ちを受け入れる努力をしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が必要とされている支援を十分に把握し、スタッフ、医師等と相談したうえで、支援内容の説明、サービスの提供を行っている。また、他のサービスの紹介を行い、自由に選択出来るよう努力している。(訪問マッサージなど)		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなり入居せず、入居者様だけでなく、ご家族にも協力して頂き、当グループホームの生活を少しずつ体験して頂きながら、慣れていってもらうようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者本人の生活史を理解し、その心身の状況に応じながら穏やかな時間が送れるように支援している。ご本人の行動で学ぶことは少ないが、言葉で教わるが多く、入居者一人一人の存在がスタッフの支えとなっている。		

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、面会時に積極的な意見交換を行うよう、スタッフに指導している。ご本人に良い生活作りを行いながら、ご家族の抱えている不安やストレスに耳を傾けるよう心掛けている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人とご家族の関係を理解し対応している。面会時には、入居者様とご家族だけで過ごして頂く時間を大切に、スタッフが出来るだけ割って入らない様に配慮している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のほうから、馴染みの場所に出向く事は難しい。そこで可能な限りであれば、ご本人の以前住んでいた場所にスタッフが出向き、地域の写真を撮り、ご本人の居室に飾ったり、一緒にながめて会話を弾ませた支援の仕方も行っている。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒にテレビを観たり、お茶や食事の時間は職員も一緒に多くの会話を持つようにしたりして、共有する時間を多くとっている。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	利用が終了した後も、時々当グループホームを訪れるご家族がある。近況を伺い、楽しいひとときを過ごしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりの中で声を掛け、返答、表情等から把握に努めたり、意志疎通が難しい方には、表情の変化、体動等から利用者本位の意向を探求している。又、ご家族や友人から情報を頂いている。		

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にこれまでの生活歴を基本情報に書いて頂いている。入居されてからはご本人及びご家族から、継続的に情報収集を行っている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活リズムの把握に努め、日々変化する心情、体調、生活行動等を統合的に捉えるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者及びご家族から思いや意見を聞き、また利用者の日常の言葉や行動を観察し、職員同士意見を出し合い、利用者それぞれの課題やケアを反映した介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは定期的実施している。心身の状況に変化が生じた時や、ご家族の新たな要望が生まれた時は、随時話し合いながら新しい計画を作成している。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録用紙に食事量、水分、排泄等、心身の状況等の記録を行っている。重要事項は申し送り欄に記入し、スタッフ間での情報の共有に努めている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ建物内にクリニックがあるという特性を生かし、柔軟な医療連携を図っている。		

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	認知症実践者研修、中学生の職場体験の受け入れを行っている。ボランティアで動物を連れて来て頂き、入居者と触れ合っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ご本人やご家族の要望により、訪問マッサージを受けている。月2回の訪問理美容があり、ご本人及びご家族とヘアスタイルを決め利用している。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	昨年は権利擁護についての勉強会を依頼し、職員全員大変勉強になった。今年度はその機会がなく、外部研修へ参加した。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所1階にあるクリニックの他に、ご本人及びご家族と相談をしながら、眼科、歯科、循環器科、皮膚科の訪問診療を受けられる様、医療機関と連携をとっている。協力医療機関への通院は職員が付き添っている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日頃より認知症に詳しい医師と密な関わりがとれている為、気軽に相談にのってもらえる環境ができています。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	体調や表情、言動の変化に早期に気づくよう努めている。変化に気づいた時は看護職に報告し、適切なアドバイスを受けている。日頃の健康管理や医療面でも相談、助言を受けている。		

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には生活情報シートを医療機関に提供している。入院中は面会に行き、ご本人の状況の把握に努めている。医療機関や家族と情報交換をしながら、早期退院に結びつけている。</p>		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>契約時に終末期に関する説明を行い同意をとっている。心身の状況の変化に伴い、ご家族、関係者と対応について協議している。</p>		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>事業所開設時よりターミナルケアを実施している。ご本人、ご家族の意向を尊重しながら、主治医との連携を中心に、チームでより良い支援ができるように検討実施している。</p>		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>開設時より住み替えとなった方は数名のみとなっている。移り住まれる際は、ご本人やご家族の気持ちをおもい、少しでも不安がやわらく関わりがとれる様、職員全員で心がけている。</p>		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々個々の尊厳に基づいた声かけを大切にしています。排泄の声かけは周囲に配慮し、ご本人の耳元にて声かけを行っている。記録等は利用者の目には触れないように書いている。</p>		

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自分の思いや希望を口に出して言える方が少ない状況になっている。ご本人に分かる様に簡単に、確実に発語を促す様な声かけを心掛けている。		スタッフ全員、コミュニケーション能力が維持できる様に努めていきたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールの中で一人ひとりの体調に配慮しながら、ご本人の気持ちを尊重して、個々の生活パターンを優先する様に心掛けている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	月2回出張の理美容を利用できる。事前にご本人とご家族から希望を聞き、美容師と連絡調整をしている。また、着替える時はご本人に洋服を選んで頂いている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	主食以外は、厨房で作ってもらっている。食事を楽しいものにして頂くため、箸やスプーンを工夫し、個々で使い分け、自分の力を活かした食事をしてもらっている。 また、スタッフも一緒に食事をとりながら、声かけ、(おしゃべり)をし、楽しい食事の場になるように支援している。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	ご家族から預かっているお小遣いで、ご本人の好みの飲み物などを購入して、おやつの時にお出ししている。(差し入れの場合もある)		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご本人の訴えも含めて、サインや動きを見逃さない様になっている。時間をみて、トイレ誘導やオムツ交換をしている。各々の状況により布パンツやはくパンツを着用してもらっている。		口に出していえない方の動き、その他のサインを把握する事に努めていく。

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご本人の意向を伺いながら、大体の入浴日のスケジュールを決めている。体調がすぐれない日は後日に調整している。入浴の時は一緒に歌を歌ったり、浴槽にて手のマッサージ等行ったりしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	1日のスケジュールを見ながら、適宜、休息の時間を設けている。 一応、消灯時間はあるが、自然に眠くなるまで一緒にお茶を飲んだり、テレビを観たりして過ごしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴の中で、体に負担のかからない家事(洗濯物を畳む、干す等)に力を活かして頂いている。 行事などがあれば、歌を歌う事への参加をして頂いている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つ事は困難であり、理解は難しい状況の方が多い。 ただ、買物時は持ってもらう様にしている。		ご家族からお金を預かり、ご本人の希望に添う物を購入し、お小遣い帳を作っている。ご家族の面会時に時々収支を確認してもらい、サインを頂いている。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人から直接外出の希望が聞かれないが、時間をつくって季節の花や菜園を見に、職員とベランダや階下へ行っている。また、近所の店まで買物へ出掛けたりもしている。		利用者の体調や気候をみながら、近くでよいのもう少し外出の機会を作りたい。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	以前ADLが良い方が多い時は、車で神社や近くの海、花見に出掛けていました。ここ数年は大勢での外出は出来ていません。		事前に外出希望日を伝えられた時は、楽しく外出出来る様、体調の調整に努めている。

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら電話をかける機会は減り、ご家族から電話があった際、ご本人様に声を聞いて頂く様にしている。手紙を書くことは難しい。		ご本人が手紙を書くことは難しいが、職員が手伝い、お名前だけでも書いて頂く様にしていきたい。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	ご家族や馴染みの方達が気軽に訪問でき、また、いつでも訪ねて来て頂ける様に、リビングや居室を快適な空間として提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の必要な方はいらっしゃいません。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼夜鍵はかけておりません。帰宅願望がみられる時は、さりげなく職員が寄り添い、安全面に気をつけ、気を紛らわす様な関わりをしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜通し、リビングには職員が必ず居て、職員同士が声かけ合いを行っている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはなく、利用者の状況変化によっては注意を促していくなどケースに応じた対応をしている。		だんだんと出来ない事はあるが、日々出来る様に模索中である。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	毎月定例の勉強会で救急手当等を体験習得するためスキルアップをしている。		

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	以前は福岡市主催の救急処置講習に参加していたが、その後休止している。		職員が全員受講出来る様に再度計画をしていきたい。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、定期的に避難訓練をしている。また町内の行事や会議を利用して、当グループホームの現状を見てもらっている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	面会の際に現在の暮らしぶりを話し、起こり得るかもしれない事柄について説明、理解をもらい、自由に暮せるようにしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者一人ひとりの持病と症状、普段の状態を把握し、常に心身状況の観察と声かけを行い、表情、言動、バイタルを記録に残し申し送っている。異変が見られる場合は、主治医や看護師へ報告し、指示を仰ぎ、対応に努めている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人ひとりの持病を把握し、服用中である薬の薬事情報紙をファイルに保管し、いつでも確認出来る様にしている。誤薬防止の為、薬は入居者別、服用時間帯別にケースに分け、服用時は2名以上のスタッフで確認し合っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い物など、バランスのとれた食事を提供しており、食事を含め1日6～7回の水分摂取をして頂いている。車イス利用の入居者にも1日1回は介助歩行を行うなど、体を動かす機会をもうけ、便秘の予防に努めている。また、毎日排便確認を行い、排便の有無、形状や量を記録、申し送りをし、早期に対応出来るようにしている。排便が一定期間確認出来ない場合は、主治医の指示のもと、個人個人に合わせた薬による排便コントロールを行っている。		

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	週に1回歯科衛生士に訪問してもらい、入居者の口腔ケアとスタッフへの指導を行なってもらっている。治療必要時は歯科医への報告と週1回の訪問歯科受診が出来るようにしている。 毎食後、口腔内の観察と歯ブラシ、歯間ブラシ、タフトブラシを用いた口腔ケアを行い、うがいが難しい入居者には口腔ガーゼや口腔スポンジを使用している。また、義歯は1日1回洗浄剤につけ、口腔内の清潔保持に努めている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分は食事を含め1日6～7回摂取して頂き、食事量、水分量は毎回記録に残し、摂取状況が確認できる様にしている。 また、嚥下状態に合わせ、食材や水分の形状を変えており、声かけや必要時は介助を行っている。それでも食事量が少ない場合や、体重減少が見られる時は総合栄養剤を摂取していただく等して栄養が確保できる様にしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	スタッフ、面会者、入居者には来所時、食事前、トイレ後の手洗い、うがいを促しており、スタッフの身内等に感染者が出た際には出勤せず、電話連絡にて医師に出勤可能か確認してもらっている。 入居者に感染症が出た際は、他入居者との接触を避け、消毒と防護服を使用して入退室を行い、衣類等は消毒し別洗いする様徹底している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具や食器等は毎回熱湯や食洗機、ハイター、アルコール消毒を徹底し、ふきん交換チェックを実施している。また、食材は賞味、消費期限を毎日チェックし、常温保存出来ない食品は、冷蔵、冷凍保存している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関付近や建物周囲は毎日掃除を行い、清潔感を保ち、花壇等を置いて親しみやすい環境にしている。また、玄関では常にスタッフが対応し、気持ちよく出入りして頂ける様心がけている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた花や飾りと、魚の水槽等を設置している。また、入居者の似顔絵や写真を貼り、生活感や季節感を味わえる様にしている。		

グループホーム 楽居

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間ではソファや和室、そして3ヶ所に分けて設置したテーブルがあり、入居者が思い思いに過ごせる場所の確保が出来る様にしている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には入居者が使い慣れた家具と装飾品を置き、ご本人、ご家族、ペットや住んでおられた所を写した写真を貼り、居心地良く過ごせる様心掛けています。また、テレビやラジカセ等も置いており、好みの音楽やラジオ番組が観たり聴いたり出来る様にしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前、午後と換気を行い、訪室ごとに室温の確認をしています。季節に応じて居室の向きや、入居者の体質に合わせてながら、窓を開閉したり、寝具、エアコンによる室温調節を行っている。また、乾燥時は加湿器を使用するなどし、快適な環境が維持できる様努めている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、共用空間には段差をなくし、車イスでも通れる様なスペースが確保され、手すりが設置されている。なおかつ、一人ひとりの身体機能に応じた手すりポールも設置している。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	入居者一人ひとりの認知の状態を把握しており、必要に応じた細かな声かけ等を行っている。また、各居室や物品には入居者の名前を貼る等しており、混乱や失敗を防げる様心掛けています。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物内にはベランダがあり、野菜や花を植えて、入居者が見に行ったり、一緒に洗濯物を干したり等、活動できる場所を設けている。		

グループホーム 楽居

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム 楽居

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自宅にいるように、ゆっくりと無理のない生活を送って頂けるように、個人個人のペースに合わせたケア、入居者との関わり方に力を入れている。

運営母体が医療法人であるため、医療との連携は密に取れており、身体の異常時には、すぐに対応ができる。

また、理念の一つとして「穏やかな死の援助」と挙げているように、ターミナルケアにも力え入れ、医療のバックアップを受け、馴染みの場所と思って頂きながら、最後までケアを行っていくことを目標としています。